

自己評価結果公表シート

2023年度

明星幼稚園

1. 園の教育目標

ビジョン

- ・すべての園児が自信をもって生活できる幼稚園
- ・自分だけでなく、友だちを大切にできる幼稚園
- ・好奇心を育み、自分の「好き」をたくさんみつけれられる幼稚園

教育目標

「多様性を認め、未来を切りひらく子の育成」

2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画をもとに設定した学校評価の具体的な目標や計画

2-1. 全体事業計画

(1) 就学に向けて

小学校就学に向けて、「なだらかな接続」を意識したカリキュラムを土台に、言語や確かな学力につながる芽生え、健康・基礎体力につながる「生活習慣・運動能力」を身に付け、社会生活における望ましい「態度や習慣」、「他者への思いやり」及び「協同の精神」の芽生えを促します。

また、玩具や遊具の選定においても、意図的に学びを意識し、日常の遊びが自ずと就学につながるよう環境設定をしていきます。

(2) 一貫教育の推進

明星小学校との連携事業を活用し、幼小合同研修会において相互理解を深め、就学前教育「アプローチカリキュラム」を実施します。また、認知能力の発育を促す共通の教材を幼稚園と小学校低学年教室双方に環境整備することで、学びの連続性を担保します。これにより就学へのなだらかな移行を目指し、学内進学者の増加へと結びつけます。

また、明星小学校への内部進学希望者に対して、入学試験の体験会を定期的を実施することで、親子共に過度な負担なく入試への準備を進められるようにし、内部進学の利点を高めていきます。

(3) 教育目標達成に向けて

保育の特色（「めばえの時間」に位置づけられたカリキュラム、ループリック、「のびのびタイム」などの明星小学校との連携、個人成長記録「すくすく」、安全対策、就学前教

育「アプローチカリキュラム」等）をさらに充実させ、内外に発信します。また、教員研修・研究により、各教員が常に保育への課題意識を持ち、教育力の向上を目指すとともに、一人ひとりの教員が、明星幼稚園が大切にしている保育の在り方を共通のものとして認識し、一層高めていけるようにします。

(4) 心の教育

小動物（熱帯魚、昆虫等）を身近に感じさせることで興味を持たせ、生命を尊重する態度や、園児自身の心の安定を図ります。また、心の成長を促すために各担任や園長講話では、園児に分かりやすく SDGs や命の大切さ、社会生活、自然現象、数や言葉の知識等を伝え、保護者に対しては、幼児期に非認知能力を育成する重要性を日常の活動を通して示していきます。

(5) 多様な体験

英語遊びでは、ネイティブスピーカーを講師として定期的なレッスンを行うことで、英語や外国人を身近に感じ、物怖じせずに聞いたり発語したりすることで、楽しみながら、英語に興味を持てるようにしていきます。さらに異文化に触れ、興味関心の幅を世界に広げることも意識して実施します。外部団体との連携では、遠足にプラネタリウム見学を取り入れ、そのために事前学習として教員が作成したポスターを掲示し、当日子どもたちが存分に興味を持てるよう工夫していきます。

他にも外部講師（運動遊び専門講師、植松電機「ロケット教室」、100万人のクラシックライブ、臨床美術講師等）と連携して、こころ動く体験を多く取り入れ、子どもたちの感性、探究心、主体性を積極的に育むべく計画していきます。

(6) 子育て支援

子育て支援として、未就園児対象「ひよこクラス」及び1歳児対象「ぴよぴよクラスファースト」をさらに充実させます。また、2歳児プレスクール「ぴよぴよクラスセカンド」を継続して行い、次年度入園に向けての準備をしていきます。

明星小学校と連携し、保護者向けの講演会等を開催します。また常時子育ての相談窓口として幼稚園教員が対応できることやマイルーム利用ができることを周知していきます。

2-2. 学年毎の計画

(1) 年少

- ①自分の思いを言葉で相手に伝える
- ②動植物（昆虫を含む）、自然の事象に興味を持ち、観察したり世話をしたりすることで身近に感じ、興味を幅を広げる
- ③生活の中で新たな発見をし、感動や喜びを友だちと共有する

(2) 年中

- ①発見や工夫を楽しみながら遊びを進め、自ら発見したり集中して取り組んだりすることで充実感を味わう
- ②自分の思いを言葉で相手に伝えたり、相手の思いに気付いたりする中で、言葉によるコミュニケーションの大切さを知る
- ③集団生活に必要なルールや決まりを守り、友だちとのつながりを広げる

(3) 年長

- ①自分の思いを言葉で相手に伝えたり、相手の思いに気付いたりする中で、集団での生活を充実させる
- ②集団生活の中で友だちの気持ちに寄り添い、困っていたり泣いていたりに思いやりを持って接する心を持つ
- ③就学に向けて、自分で考える習慣をつけ、学びにつながる力を伸ばす

3-1. 評価項目の達成及び取組状況

評価項目	結果	理由
(1) 就学に向けて	A	<p>保護者アンケート結果より</p> <ul style="list-style-type: none">◎「小学校就学に向けて、学びにつながる意欲が芽生えましたか」 とてもそう思う 26%・そう思う 55%の合計は 81%でした。 昨年度 (77%) と比較すると 4%増となっています。◎「生活や運動の習慣は身に付きましたか」 とてもそう思う 39%・そう思う 56%の合計は 95%でした。 就学を前にした年長組では 92%でした。◎「社会生活における望ましい態度や習慣、他者への思いやり、協同の精神が芽生えましたか」 とてもそう思う 37%・そう思う 59%の合計は 96%でした。 就学を前にした年長組では 97%でした。 <p>「なだらかな接続」を意識したカリキュラムを土台に、日常触れる絵本、玩具などの遊びや、絵画や運動などの表現活動、教員や子ども同士の関わりから、言語や探究心、生活習慣、運動能力などを身に付け、社会生活における望ましい態度や習慣、他者への思いやりを育んできました。</p> <p>これらの施策が保護者から評価されてのアンケート結果と考えます。</p>
(2) 一貫教育の推進	A	<p>明星小学校との幼小合同研修会では、年長クラスにある知育玩具の有効性を幼小教員と一緒に確認し、その後試験的に明星小学校 1 年生の教室に貸し出しすることとしました。その結果、1 年生も興味関心の幅を広げる様子から、学びの有効性を実感することができました。今後、小学校での本格導入が検討され、幼小の学びの連続性を目的とした環境の整備をしていくこととなります。これにより就学へのなだらかな移行を実現し、入学志願者の一層の増加へと結びつけます。</p> <p>今年度の内部進学者に関しては 44%、昨年度 (40%) から +4%となりました。</p> <p>また、明星小学校への内部進学希望者に対して、入学試験の体験会を計 4 回実施しました。内部進学の利点を大いに生かし、無理なく内部進学入試への準備を進めるサポートができたと感じています。保護者アンケートでも、その手厚さに多くの感謝の言葉が聞かれました。</p> <p>保護者アンケート結果より</p> <ul style="list-style-type: none">◎「明星小学校に関する明星幼稚園対象の説明会や個別相談会を通じて、明星小学校についてよく知ることができましたか」 (年長) 参加したと回答した保護者の満足度は 98%でした。 (とてもそう思う 52% そう思う 46%)

<p>(3) 教育目標達成に向けて</p>	<p>A</p>	<p>明星幼稚園の保育の特色となる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「めばえの時間」に位置づけられたカリキュラム ・ループリック ・「のびのびタイム」などの明星小学校との連携 ・個人成長記録「すくすく」 ・安全対策 ・就学前教育「アプローチカリキュラム」 <p>を実施し、教育目標にある「多様性を認め、未来を切りひらく子の育成」に向け、多様な価値観に触れる貴重な体験を園児に提供することができました。</p> <p>また、昨年度私学財団の助成を受けてまとめた研究『「探究」する心を育む保育の実現に向けた実践と考察』を今年度は、幼児教育実践学会（会場：大妻女子大学）ではパネル発表、府中市私立幼稚園協会園長研修会では要請をいただき全専任教員で口頭発表を行い、他園の先生方からも高い評価をいただくことができました。</p> <p>教員研修・研究により、各教員が常に保育への課題意識を持ち、教育力の向上を目指すとともに、一人ひとりの教員が、明星幼稚園が大切にしている保育の在り方を共通認識の元、実践することができました。</p> <p>今年度は、より活動期間の幅を持たせ、効果検証ができるように、次年度と2年間をかけて研究をまとめるべく、研究内容「子どもが創る深い学び ～『やりたい』気持ちが膨らむ環境づくり～」を決めて推進しています。</p>
<p>(4) 心の教育</p>	<p>A</p>	<p>保護者アンケート結果より</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎「園生活において昆虫や魚などの小動物を身近に感じるようになりましたか」「とてもそう思う」「そう思う」の合計は85% 前年比+11%でした。 ◎「園はお子様に命の大切さ、社会生活、自然現象、数の知識等を伝えられていると思いますか。」「とてもそう思う」「そう思う」の合計は96% 前年比+9%でした。 <p>教員は園児に寄り添い、相手と自分の双方を尊重する社会生活の基本を、日々のコミュニケーションやカリキュラムから伝えられており、アンケート結果に結びついたと考えます。</p>
<p>(5) 英語遊びや外部団体との連携等、多様な体験</p>	<p>A</p>	<p>保護者アンケート結果より</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎「英語遊び」で英語を身近に感じ、楽しみながら英語に興味を持つようになりましたか」 とてもそう思う38%・そう思う56%合計は89%でした。 年長組では93%でした。 ◎「英語遊び」で異文化に触れ興味関心が世界に広がっていますか」 とてもそう思う27%・そう思う53%の合計は79%でした。 年長組では88%でした。 <p>外部団体との連携では以下の団体と連携した活動を行いました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○年長組対象 (株)植松電機「ロケット教室」 (株)植松電機協力の下、初めてとなる「ロケット教室」を実施しました。 保護者に協力を得ながらの活動でしたが、エンジン付きの小型ロケットの組み立てから、デザインを経て、煙を巻き上げながら、大空高く打ち上がるロケット教室での打ち上げ体験は、子どもたちの心を大きく動かし、探究心、興味関心、知的好奇心を高める大変有意義な活動となりました。

		<p>○年長組対象 JAXA 宇宙教育センター JAXA 宇宙教育センターにより幼児向けに画像を借用し、宇宙教育講話を動画で聴き、バルーンロケットの制作、飛行実験などを、3年目となった今年度は担任が主となり実施しました。実施前にはプラネタリウム見学、七夕、中秋の名月などをきっかけに、月や宇宙、宇宙飛行士、ロケットなどへ興味を向け、当日を迎えることができました。その後の生活でも、宇宙に関する情報に興味関心を持つ園児が増えました。</p> <p>○年中組対象 NPO 法人 ARDA 主催 影絵専門家によるワークショップ 2年目となった今年度は、事前に打ち合わせた内容で担任と年中児が被り物のオブジェ制作をし、当日はプロジェクターを光源とした大きなスクリーンの内側に入り、自分の影の大小や角度による見え方の変化などを体感しました。この様子は保護者にも参観いただきました。</p> <p>○全学年対象 臨床美術専門家による芸術活動（制作） 全学年とも、全員が作業に集中し、完成後はクラス全員の中で、講師による一人ひとりへの肯定的な講評の中で、楽しく集中して制作した作品を認められ、充実した様子が見られました。この活動は園児一人ひとりの自己肯定感を高め自由な自己表現を促す活動として今後も継続して実施していきます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年 長 本物のイチゴを見たり嗅いだり触れたりして3種類の方法で作画しました。 ・年 中 紙皿に各自の感覚で混色したり、描き方を工夫したりして、陶芸の絵付けのような感覚で作成をしました。 ・年 少 黒厚紙上に円状などのシールを貼り、白絵具を綿棒、スポンジなどを使用して彩色しました。 ・全学年 100周年記念オブジェを園児と教員が一枚ずつ制作した羽を合わせて制作しました。 <p>○全学年対象 幼児体育専門家（幼体連）による運動遊び 担任による運動遊びと並行して取り入れることで、幼稚園の伝統として行ってきた運動遊び（年長キャスター運動など）と、発達段階に即した多様な運動を取り入れることができました。これにより子どもたちは遊びの中で楽しく運動の習慣を身に付け、教員にとっても専門家の指導から学び取ることやアドバイスを受ける好機となりました。</p> <p>次年度以降も、英語・芸術・理数・運動の面において、多様な体験ができるようカリキュラムを組んでいくこととします。</p>
(6) 子育て支援	B	<p>未就園児対象の「ひよこクラス」「ぴよぴよクラスファースト」（1歳児対象）を年度計画の通り実施できました。</p> <p>入園希望者対象の「ぴよぴよクラスセカンド」（2歳児親子）においては年間を通じた活動により、次年度入園に向けて、子どもたちが園の環境に慣れることができました。また保護者の方も担当教員や保護者間で情報交換ができる機会となり、親子のスムーズな入園へと導くことができました。</p> <p>また、学苑マイルームと連携し、幼稚園内で講演会を実施。マイルーム通信を配信するなどしました。</p>

3-2.評価項目の達成及び取組状況（学年毎の計画）

評価項目	結果	理由
(1) 年少組 年少① 自分の思いを言葉 で相手に伝える	A	<ul style="list-style-type: none"> ・ループリック5月 1.29 →年度末 2.00 +0.71 ・年少保護者アンケート結果 「自分の思いを言葉で相手に伝えることができるようになりましたか」 とてもそう思う(44%)そう思う(51%)の計95% <p>◎入園当初は安心できる環境作りを心掛け、個々の思いを受け止めることに注力してきました。これにより幼稚園は安心して自己主張できる場所となっていました。 また、簡単な絵本や紙芝居などを通して、言葉のやりとりや意味を知らせていきました。それにより人との関わりを多く持とうとし、自由に言葉や態度で表現することができるようになっていきました。</p> <p>◎2学期以降は友だちとの関わりが深まり、会話も増えたことで、言葉でのコミュニケーションを取ろうとする姿が多く見られました。個人差はあるが、言葉の意味を理解し、遊びや活動の中で思ったことや感じたことを伝え合うようにもなりました。 日頃から子どもたちのやり取りを見守り、必要な時は援助をしながら、言葉で伝えられる機会を設定してきたことで、個々の表現の成長に繋がりました。</p> <p>◎3学期には友だちや担任に自分の思いや出来事などを話し、積極的にコミュニケーションを取りながら生活する姿が多く見られるようになりました。 また、発表会の劇遊びを通して、言葉のやり取りを楽しみ、遊びの中でも自然と会話が増えました。友だちの気持ちを受け入れながら、自己表現する方法を繰り返し伝えたことで、相手に自分の思いや気持ちを理解してもらおう心地よさを感じるできるようになりました。</p>
年少② 動植物（昆虫を含む）、自然の事象に興味を持ち、観察したり世話をしたりすることで、身近に感じ、興味の幅を広げる	A	<ul style="list-style-type: none"> ・ループリック5月 1.67 →年度末 2.07 +0.40 ・年少保護者アンケート結果 「動植物（昆虫を含む）、自然の事象に興味を持ち、観察したり世話をしたりすることで、身近に感じ、興味の幅を広げていますか」 とてもそう思う(40%)そう思う(49%)の計89% <p>◎1学期は青虫の成長観察や、ミニトマト、胡瓜など身近な植物の栽培の生長観察を通して、その変化に気がつく子どもが増え、更なる興味や好奇心に繋がりました。 生長の悪かった植物に対しては、なぜ育たなかったのかを考える良い機会にもなり、そこで個々が感じたことを伝え合い、一人ひとりの思いを受け止めてきたことにより、伝え合う喜びも感じているようでした。</p> <p>◎2学期は、引き続きクラスで育てている野菜、生き物に興味を持ち、観察することや飼育することを喜んでいました。 学苑内散歩や戸外遊びでは空や雲の様子に目を向けたり、自然物を拾って観察したり、様々な発見や感じたことを言葉で伝えようとする姿も見られました。 子どもたちの発見や気付きに共感し、更なる興味関心が深まるようクラス全体での共有にも努めました。また保育者からの促しにより更なる探究心に繋がったと感じています。</p>

		<p>◎3学期はちゅーりっぷやヒヤシンスの生長や変化を一緒に観察したり、水やりを促したりすることで、より興味や関心を持つ姿が見られました。</p> <p>氷や雪などに興味を持ち、どうしたら氷ができ、溶けてしまうのかなど色々な疑問を持つことができました。</p> <p>氷作りの体験や、雨が雪に変化する過程や様子、違いなど、子どもの疑問や発見したことに共感し、図鑑やiPadを活用したことで、冬の自然事象への興味関心がさらに広がりました。</p>
<p>年少③ 生活の中で新たな発見をし、感動や喜びを友だちと共有する</p>	A	<p>・ルーブリック5月 1.24→年度末 2.15 +0.91</p> <p>・年少保護者アンケート結果 「生活の中で新たな発見をし、感動や喜びを友だちと共有していますか」とてもそう思う(51%)そう思う(44%)の計95%</p> <p>◎1学期は子どもたちの成長や遊び方に合わせ、玩具の出し入れをし、コーナー設定の工夫などをしてきました。</p> <p>教員は指示を出しすぎることなく、新たな遊びを提案するにとどまり、一人ひとりが自ら考えた遊び方や楽しみ方に共感してきたことで、互いの遊びやアイデアに興味を持ち、更なる遊びや、友だち関係の深まりにも繋がりました。</p> <p>◎2学期になると、言葉でのやり取りが増えたことにより、生活や遊びの中で様々な発見を共有しようとする姿が見られました。</p> <p>おままごと遊びでは、コーナーに新しいテーブルを導入したことにより、遊び方にも広がりが見られました。</p> <p>子どもたちの遊び方や成長に合わせ、玩具の種類を工夫し、遊びが広がるよう環境設定をしたことで、新たな遊び方の発見に繋がりました。</p> <p>◎3学期は子どもたちの遊びの様子や時期に合わせ、新しい玩具（道路づくり、大工さんなど）を出すことで、友だちと考えを伝え合い、イメージを共有しながら遊びを進めたり、自分なりの発想で遊んだりする姿が見られるようになりました。</p> <p>また、発表会の活動を通して、実体験を表現しつつ、空想の世界を広げる姿が見られ、友だち同士で気持ちを理解し合ったり、助け合ったりしながら生活できるようになりました。</p>
<p>(2)年中組 年中① 発見や工夫を楽しみながら遊びを進め、自ら発見したり、集中して取り組んだりすることで充実感を味わう</p>	A	<p>・ルーブリック 年度当初 1.29 → 2月 1.96 + 0.67</p> <p>・年中保護者アンケート結果 「発見や工夫を楽しみながら遊びを進め、自ら発見したり、集中して取り組んだりすることで充実感を味わっていますか」とてもそう思う(45%)そう思う(51%)の計96%</p> <p>「生活の中で新たな発見をし、感動や喜びを友だちと共有できるようになりましたか」とてもそう思う(45%)そう思う(51%)の計96%</p> <p>◎1学期は各クラスで廃材コーナーを準備し、自分たちで創造して遊びを進められるよう環境設定をしました。遊びを進めるにつれ、友だちの作品に刺激を受け、模倣しようとしたり、作ったものを使って遊びを進める姿が見られるようになり、自分で考えたり、活発なコミュニケーションを取ったりする面で成長が見られました。</p> <p>一方で、ハサミの使い方やセロテープ、折り紙などの道具の使い方には個人差が目立ち、課題がみられます。</p>

	<p>◎2学期になり、廃材制作を繰り返し行う中で、友だちと一緒に目的を持ち、セロテープやハサミ、スズランテープなどの素材を組み合わせながら遊びを進める姿が多くみられるようになりました。 スズランテープの置き方も工夫することで、子どもたちが自主的に遊ぶ姿が見られるため、3学期も学年間で連携を取り、コーナー設定の仕方を検討していきました。</p> <p>◎3学期になると、廃材コーナーを引き続き設けるとともに、手先を使う細かい玩具（LaQや手編み）を新たに出し、周りの友だちに刺激を受けながら、1つの遊びにじっくりと取り組む姿が見られるようになりました。 また、壁面制作やお店屋さんごっこ、影絵のワークショップなどの制作を通し、ラッシュンペン、糊、ハサミの扱い方を再確認することで、自由遊び中も自分のイメージに合わせて用品を選び、工夫して遊ぶ姿も見られるようになってきています。</p>
<p>年中② 自分の思いを言葉で相手に伝えたり、相手の思いに気付いたりする中で、言葉によるコミュニケーションの大切さを知る</p>	<p>B</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ループリック 年度当初 1.52 → 2月 1.91 + 0.38 ・年中保護者アンケート結果 「自分の思いを言葉で相手に伝えたり、相手の思いに気付いたりする中で、言葉によるコミュニケーションの大切さを知る」 とてもそう思う(37%)そう思う(56%)の計93% <p>◎1学期始めは、年少からのクラスの友だちとの関わりが多くみられたが、新しいクラス内での遊びを通して少しずつ友だちの名前を覚え、関わり合う姿が見られるようになりました。 当番活動へも積極的に参加する子どもが多いため、2学期以降も発表する場や個々の興味や得意とすることが発揮できる場を作っていました。 また、遊びの中では、自己中心的な面が目立ち、言葉で伝える前に手が出たり、相手を傷つけるような強い口調で話したりする様子も見られました。 その都度、教員は当事者の気持ちを代弁すると共に、相手の気持ちに気付けるよう繰り返し指導してきました。場面に応じた適切なコミュニケーションについては引き続き指導していく必要があります。</p> <p>◎2学期になり、運動会や発表会など友だちと協力して活動する経験を通し、日頃の遊びの中でも、1学期に比べて自分たちで会話をしながらコミュニケーションを図る場面が多くみられるようになりました。 その中で意見のすれ違いや些細なトラブルもありますが、相手の意見に耳を傾けようとする気持ちも見られるようになってきました。 クラスでは、「ちくちく言葉」や「にこにこ言葉」を話し合い、持ち帰り絵本の読み合わせを通し、様々な語彙に触れる経験を持っているため、3学期も継続して行っていくこととしました。</p> <p>◎3学期になると、トラブルは教員が援助する場面もまだ見られますが、全体的に友だちとの言葉による関わりが以前より増えてきたことで遊びの内容も変化し、集団でルールのある遊び（かるた、トランプ等）を教え合い、遊びの中で互いに譲り合いながら、自分たちで遊びを進めようとする気持ちが強くなってきました。 2学期同様に、持ち帰り絵本の読み合わせ時やクラス全員で話し合う時間を定期的に持つことで、友だちの意見に刺激を受け、相手を受け入れようとする気持ちも芽生えてきています。 ただ、個人差はまだ大きく、担任が個別に指導する機会が多いため、今後も引き続き援助は必要だと考えます。</p>

<p>年中③ 集団生活に必要なルールや決まりを守り、友だちとのつながりを広げる</p>	<p>B</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ループリック 年度当初 1.74 → 2月 2.15 + 0.41 ・年中保護者アンケート結果 「集団生活に必要なルールや決まりを守り、友だちとのつながりを広げることが出来るようになりましたか。」 とてもそう思う(35%) そう思う(61%)の計96% <p>◎1学期は、年少時からの園生活のルールや生活面での約束事を再確認しましたが、生活習慣を見ると雑な面が目立ち、自分のことを後回しにして友だちに指摘する姿が見られるなど、進級後の生活に慣れるにつれ、個人差も大きくなっていきました。 ロッカー整理や洋服の畳み方など繰り返し指導することで、自分で出来るようになった事に自信を持つ子どもの姿がみられ、毎日繰り返し指導する中で習慣となるようにしていきました。</p> <p>◎2学期になり、園生活でのルールやきまりは少しずつ自分たちでも意識する姿が見られ、困っている友だちを助けたり、生活の中で自分から考えて動こうとしたりする姿が見られるようになってきました。 一方で、相手に伝える時の言葉遣いなどは進級を見据え指導をしていく必要を感じました。 運動会や発表会の経験から、仲間意識が芽生え、集団で同じ遊びを楽しむとする姿が以前より見られるようになってきました。 3学期も保育者が率先し、様々な遊びを提供していくこととしました。</p> <p>◎3学期になると、クラスの友だちとの関わりが深まってきたことで、かるたやトランプなど大勢でルールを教え合いながら一つの遊びを継続して楽しもうとする気持ちが芽生えてきました。 生活の中では、集団生活においての基本的なルールは概ね理解し、全体的に守ろうとする気持ちが見られますが、時に気持ちが盛り上がるとルールを無視した危険な場面が見られるため、今後も継続した指導が必要と考えます</p>
<p>年長① 自分の思いを言葉で相手に伝えたり、相手の思いに気付いたりする中で、集団での生活を充実させる</p>	<p>A</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ループリック 年度当初 2.64→ 2月 3.39 +0.75 ・年長保護者アンケート結果 「自分の思いを言葉で相手に伝えたり、相手の思いに気付いたりする中で、集団での生活を充実させることができましたか」 とてもそう思う(45%)そう思う(47%)の計92% <p>「生活の中で新たな発見をし、感動や喜びを友だちと共有できるようになりましたか」 とてもそう思う(51%)そう思う(44%)の計95%</p> <p>◎1学期は年中時よりも当番活動等を通して、人前で発表したり発言したりすることが積極的に出来るようになってきました。 七夕飾り制作やお泊り保育の係決め等では、自分の思いを言葉で伝え、話し合う良い機会となりました。その反面、自己主張が強く、相手の思いは受け入れられない場面も多々見られ、自分の思いが通るまで主張し続ける姿も見られました。</p> <p>◎2学期になり運動会や劇遊び発表会を通して、自分のやりたい係、役を自分で決めたことで、責任感を持ち、最後までやり遂げる大切さを学ぶとともに、やりたいことを伝える大切さ、人前でも自信を持って発言、発表することの大切さを理解することが出来ました。 また、友だち同士で認め合い、更に大きな自信となり、集団生活としても存分に充実させることができたと考えます。</p>

		<p>◎3学期になると得意なことを友だちの前で披露する「何でも発表会」や当番活動を通して、自分を見てもらったり、話を聞いてもらったりする経験が増え、自信が深まってきました。</p> <p>また、相手の意見や思いを聴く機会も増え、少しずつ相手の立場になって考えることが出来るようになってきました。</p> <p>個人差はありますが、苦手なことにも挑戦しようしたり、友だちのしていることに興味を持ったりして、集団生活を充実させることができました。</p>
<p>年長② 集団生活の中で友だちの気持ちに寄り添い、困っていたり泣いていたりに思いやりを持って接する心を持つ</p>	<p>B</p>	<p>・ループリック 年度当初 2.37→ 2月 3.33 +0.96</p> <p>・年長保護者アンケート結果 「集団生活の中で友だちの気持ちに寄り添い、困っていたり泣いていたりに思いやりを持って接する心を持つことができましたか」 とてもそう思う(40%)そう思う(55%)の計95%</p> <p>「生活の中で新たな発見をし、感動や喜びを友だちと共有できるようになりましたか」 とてもそう思う(51%)そう思う(44%)の計95%</p> <p>◎1学期は年少児の制服を着せる手伝いや朝のあつまりの手本となり認められることで、自信につながる良い機会となり、年下の子どもへの思いやりの心を育てることが出来ました。</p> <p>また、クラス内では担任が手本となり、頑張っている子どもを認め応援することで、模倣する子どもが増えていきました。更にクラスの友だちに目を向けて、積極的に助けられるよう促していきました。</p> <p>◎2学期になりお泊り保育、運動会、劇遊び発表会と、クラスでの活動が多く、絆が深まったことにより、友だちに対しての気遣いや気付きが多く見られるようになっていきました。</p> <p>協力して活動を進める大切さや、友だちと目標を共有し、気持ちを一つにすることの重要性にも気づき、相手に優しくすることやみんなで頑張ろうとする気持ちを持って活動することが出来るようになっていきました。</p> <p>◎3学期になると多様な活動や遊びを通して、友だちの様々な考えに気付くことができるようになりました。しかし、その違いを認めることは出来ても、歩み寄ることがなかなか難しいと感じる様子が多かったようです。集団生活をする上で、友だちの思いを受け入れながら生活することの大切さを伝えていきました。</p> <p>少しずつ友だちの気持ちに気付き、寄り添えるようになってきています。</p>
<p>年長③ 就学に向けて、自分で考える習慣を付け、学びにつながる力を伸ばす</p>	<p>A</p>	<p>・年長保護者アンケート結果 「就学に向けて、自分で考える習慣を付け、学びにつながる力を伸ばすことができましたか」 とてもそう思う(29%)そう思う(56%)の計85%</p> <p>◎1学期は行事前、廊下に掲示したポスターをよく見たり、しおりを使って内容を知ったりすることで主体的に活動に参加することが出来ました。</p> <p>普段の生活の中でも様々なものに興味を持って過ごすことが出来るようになったと考えます。</p> <p>その反面、指示を待ったり、生活の中で気持ちの切り替えが出来なかったりする部分もありました。</p>

	<p>◎2学期になり JAXA 宇宙教育センターとの連携活動や発表会に向けての劇遊びなど、担任からの指示ではなく自分たちで考えて行動するなど、自発的に活動することが出来るようになっていきました。</p> <p>個人差はありますが、日々の遊びや生活の中でも「生活ボード」（当日の予定が絵や文字で示されたもの）を見て、自分で気づいて行動する姿も見られるようになってきました。</p> <p>また、机を二人掛けにし、正面に向けたことで、教員の話最後まで聞くことができるようになってきています。</p> <p>◎3学期は小学校教員によるのびのびタイム等の小学校との連携活動に加え、普段の生活の中で就学を意識する機会が増えたことにより、小学校への期待が高まった様子が見られました。</p> <p>はじめをつけた生活を心がけ、一人ひとりが見通しを持ち、自信を持って生活できるように促したことで、自分で考え、自ら行動することができるようになってきています。</p>
--	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

結 果	理 由
A	<p>全体事業計画では、特に「教育目標達成に向けて」は「めばえの時間」を中心としたカリキュラムにおいて、昨年度から継続した内容と、新たな施策も取り入れ実施することができました。</p> <p>保育研究では、その成果を発表する機会を2度設けたことで、各教員が研究に前向きに臨み、自身の保育にフィードバックさせるサイクルができてきました。</p> <p>研究を進めるために課題となる教員の働き方については、教員が自身の保育準備・反省に集中できる環境をさらに整えていく必要があります。</p> <p>研修については例年通り内部・外部研修を実施しましたが、今年度整った正課の「運動遊び」「臨床美術」において、園児の活動の充実はもちろん、各教員の気付きを深め、教員が自身の計画を専門家に迅速に相談できるという良い結果をもたらしました。</p> <p>他の項目については、保護者アンケート結果の満足度数値に見られるように、当園の教育活動を支持していただいたと考えます。</p> <p>3-2 「学年ごとの計画」では年度始めからの成長を数値化したルーブリックに基づき、概ね目標を達成したと考えます。</p>

◎「3.4」の評価結果の表示方法

A	十分達成されている
B	達成されている
C	取り組まれているが、成果が十分でない
D	取組が不十分である

5. 今後取り組むべき課題

課 題	具体的な取組方法
2023 年度に改定した保育料に見合った、保護者が納得感を得られる施策および環境整備をさらに推し進める必要がある。	<ul style="list-style-type: none"> ・運動あそび、臨床美術の専門家による正課の保育の機会を増やしていきます。 ・年中保育室の園児ロッカーを新調（2024 年度）します。（年少、年長クラスは既に改修済み）
進む少子化の中、保育の質を維持し、明星の幼児教育で育む子ども像を教職員と保護者と共有し、保護者が安心して子どもを通わせることができ、他では得られない経験を提供していくための不断の改革が必要である。	<ul style="list-style-type: none"> ・質の高い保育を目指すために、保育研究を継続実施し、活動の意義、狙いを明確にした上での保育実践に取り組んでいきます。また、研究により身に付けた教員一人ひとりの力が、園全体の保育力の向上に繋がるよう互いの研究成果を共有していきます。 ・幼稚園内にとどまらず、幼稚園から高校までの15年間を俯瞰した特色ある明星教育の入り口としての教育のあり方を見出し、総合学園ならではの利点を最大限に生かしたプログラムを実践していきます。 ・幼小、幼中高、幼大それぞれとの連携を強め、園児、児童、生徒、学生相互に成長し合える活動プログラムを推進します。
保育時間増を目的とした園バス運行改善案を取りまとめ、保育の質のさらなる向上を目指す必要がある。	全園児が揃って活動できる時間を早めに設定すべく、朝の園バス運行について施策を講じていきます。これにより、新たな時間も創出され、従前の保育活動の改善や新たなプログラムなど、保育の質をより一層向上させる取り組みが期待できます。

※記入に際しての留意点

- 「3. 評価項目の達成及び取組状況」の理由については、指標や基準等の内容に基づいた成果や取組の状況、評価結果の根拠を記入する。
- 「4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果」については、「3. 評価項目の達成及び取組状況」を総合的に評価して記入する。
- 「5. 今後取り組むべき課題」については、評価項目を課題とするだけでなく、指標や基準等、できるだけ具体的な視点から課題を記入することが望ましい。
- このシートを作成するに当たり、教職員の「個人評価シート」や、個々の指標や基準等を評価する「補助シート」を作成することも考えられる。